

第8期四国中央市自立支援協議会第2回会議(書面会議) 意見等

No.	①第8期自立支援協議会連絡会・各専門部会活動計画
1	支援対象者やサービス種別によって、福祉が担うべきところ、地域や関係機関の連携で補えるところと仕分けできないか。
2	各部会とも現状課題の把握は出来ており、今後の具体的な推進方策の検討をお願いします。
3	コロナ感染者数が増加傾向にあるため、定期的な部会開催が行えるようZoom等の活用が必要。
4	障がいのある人や家族が、自分の住みたい場所で困ることなく生活し、自立して生きていけることを目指して、専門部会・連絡会がそれぞれ役割意識をもって活発に活動する今期の方向性が確認出
5	客観的な数値データと偏りのないニーズ調査をふまえ、選択と集中の視点で進めていただきたい。
6	資源開発部会であげられている「最重要ニーズ」を検討するにあたり、ヘルパーに着目されているが、その他の福祉人材についてはどのように考えていくのか。
7	資源開発部会に関して、最重要ニーズにある「ヘルパーの不足」について、関係の保護者から同様の声があり、改善の糸口が見つかるとうと思った。
8	資源開発部会活動計画の中の「重要ニーズ」についてですが、障がい者の理解ある地域づくりについて、障がい者の生の声を聞いているのだろうか。
9	公的施設における障がい者に対する配慮(やさしい施設整備)がなされているのか疑問に思う点がある。公共施設でも、車いすトイレの表示や洋式トイレの表示(「奥にあります」)がない所がある。また、入口に段差のあるトイレがあり、気をつけないと危ないと思うことがある。車イス用のスロープだけでなく、体が不自由な人の歩行の安全も確保して欲しい。そんな小さなこと1つ1つが積み重なって理解や配慮が生まれてくると思う。
10	市民後見人を増加を目指すなら、具体的な仕事内容等の説明から必要。「老活」等と名称し、啓発してはどうか。
11	「福祉ナビ」の発展をお願いします。
12	専門用語が難しい。
13	心のバリアフリーステッカー協力店について、市内71店舗から支援を頂いている。「あいサポート運動」を拡げていく下地作りには地域への働きかけ等、地道な活動が必要。
14	こども部会に関し、実態把握、課題整理の方法・内容を検討されるとのことですが、保護者の意見として、「障がいのある子供が参加できるスポーツ等の活動や余興に関する情報が得にくい。」「情報を得る手段に関して情報提供があるとよい。」ということ聞く。
15	医療的ケア児が地域の学校に通うという時点で(医療・教育等)との連携が必要となる。今後の調査等に期待。
16	「福祉何でも相談会」の開催について、とても有難いことだと思うが、心身に問題のある子どもをかかえた保護者の方はどうしても隠したがる。相談会の運営において個人情報を守られるよう十分な
17	「福祉なんでも相談会」について、個人情報を守る旨を記したうえで、会そのものの目的を分かりやすく示したパンフレット等があればいいと思います。
18	会場では他の相談者と顔を合わせないように時間差をつける等の工夫が必要。
19	障がいのある人が自立するために必要としているのが「就労」ではないかと思う。現在、市内で就労を求めながら待機している障がいのある人が約230名ほどいる。本市には、就業・生活支援センター(民間)が、現場の機動力としてあるが、就労に特化して考える市の就労支援の部会があると、生きていきやすさが増すのではないかと考える。

No.	②2022年度就職準備フェア
1	安全対策を行い、就労を希望する方に、安心して参加いただけたらと思う。
2	コロナ感染状況に合わせた対策が必要と考える。
3	昨年度も、みしま分校の教員が参加させていただき、地域の情報を得ることが出来た。新居浜特別支援学校(本校)では、高等部の生徒が参加したと聞いている。こうした場があることはとてもよいこ
4	面接コーナーにおいて、毎回「本番や本当の採用」と誤解される方がいるみたいなので、説明理解が必要。
5	セミナー(企業側)に、話してほしい内容を具体的に提案する。
6	実行委員会名簿に関して、発表企業(協力していただける)の参加は難しいのか。
7	障がい者の雇用問題は、極めて重要な問題と考えている。障がい者が働く企業が、業績を伸ばしている例が全国のあちこちにあるなど、もっと社会全体の動きを紹介しながら、具体的、継続的とりくむことが大切と思う。